

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

185号

2025.11



Contents

- | | | |
|---|-----------------------------|-------|
| 1 | 2025年度 第3回 理事会報告 | |
| 2 | 協議会交流の日・新人研修会 要綱(案) | 浅井聡司 |
| 3 | あいちの自然観察報告(6/7) 神宮の森を体感しよう | 名古屋支部 |
| 4 | あいちの自然観察報告(7/13) 面ノ木園地自然観察会 | 東三河支部 |
| 5 | あいちの自然観察報告(6/7) 明德公園自然観察会 | 尾張支部 |
| 6 | ピースボートで見た「山火事と自然」 日本の山火事 | 中西 正 |
| 7 | 春日井市庄内川の植物 | 内海勇夫 |
| 8 | 編集後記 | |

今号の表紙 イヌセンブリ 小牧市 マメナシの里

◆協議事項

1. 自然観察指導員講習会

日時 11月15日(土)~11月16日(日) あいち健康の森(愛知県知多郡東浦町)

希望者は104名 受講決定者は58名 NACS-Jから案内済み

2. 新人研修会・協議会交流の日(詳細は案内参照 次ページ)

日時 1月25日(日) 場所 東三河ふるさと公園(愛知県豊川市御油町滝ケ入11-2)

担当 浅井 内容 午前中グループで観察会のテーマ探しと発表午後はクラフト

3. 2026年度 総会

日時 3月20日(金祝) 講演:14:00~15:20 休憩:15:20~15:30 意見交換会:15:30~16:00

懇親会:17:00~

場所: 名古屋市市民会館(吹上)

講演者: 稲垣政志 氏(医師)

講演内容は未定 三重昆虫談話会会長・日本昆虫分類学会・コガネムシ研究会 昆虫のお話をさせていただきます。

医師業と昆虫研究を長年両立中、鈴鹿川河川敷で新種発見! 和名を「ハバビロコケシマグソコガネ」学名 ミレスス・ヨリコア

※議案書は協議会ニュースにつけて、ホームページにアップする。

また、会場の都合上、参加者の人数を事前に把握したいので、出席の意思を後日ホームページでお知らせする方法をお願いします。

4. 次回以降の理事会

第4回 2月21日(土) 13:30~ 場所は予定

◆活動報告からのお願い

1. 会計

協議会保険対象の観察会に、未納があります。各支部・各担当担当者での確認をお願いします。

2. 保険

参加人数の報告を翌月の5日までに必ず報告してください。

3. その他

「あいちの自然観察会」のリーフレットができました。各支部に配布しましたのでご利用ください。

協議会交流の日・新人研修会のご案内

日時 2026年1月25日(日) 10:00~15:00

場所 県営東三河ふるさと公園 豊川市御油町滝ケ入11-2 電話 0533-87-9301

日程 9:30 受付開始 北管理棟 会議室

10:00 開会

午前中 5~7名のグループに分かれて、観察会の下見
園内マップを見ながら、コース設定
観察会のテーマを考える。観察ポイントを決める

11:45 会議室に戻って、各グループで発表

12:00 昼食・休憩 昼食は各自で持参してください。

13:00 クラフトづくり 講師 河江 アシスタント 浅井

14:00 全体で懇談会

15:00 閉会

アクセス 名鉄名古屋本線御油駅から徒歩で約25分

名鉄名古屋本線・豊川線国府駅から徒歩で約25分

東名高速道路 音羽蒲郡インターチェンジから車で15分

車で来られる方は、北側の駐車場に止めてください。



参加申し込みはこちらから

https://docs.google.com/forms/d/1Lg2Xw1Cvbi4a_-XhuSyuw5NG09j722Uc05cMg0nPL3I/edit?pli=1



あいちの自然観察会報告

テーマ 神宮の森を体感しよう！！ 名古屋支部 滝田 久憲

名古屋支部では、今年度のあいちの自然観察会を6月7日(土)に熱田神宮で実施しました。会場となった熱田神宮は緑豊かな森の中にあり、古くから「熱田さん」とも呼ばれて名古屋市民にも親しまれ、天照大神が祀られている本殿には、一年を通して多くの参拝者が訪れています。また、そばにある名鉄神宮駅前駅の前には、昨年9月に新商業施設「あつたnagaya」ができたこともあり、外国人を含む多くの観光客が神宮を訪れるようになりました。

ところであまり知られていませんが、愛知県は神社仏閣の数で日本一となっています。特に寺院数が断トツ一位となっています。それは、戦国時代には3大英傑を輩出し、歴史の中心的な舞台となった場所でもあり、いくつかの街道が交差する地理的な特徴から、色々な文化の交流があったからだと推測されます。その影響で名古屋市には418箇所の神社と1012箇所の寺院があるそうです。こうした神社や寺院にはご神体やご本尊を守るためにその周りに常緑樹を主体とした社寺林などがあります。そして、その樹木の多くが長く保全されてきたために大木が多く、その一部は名古屋市によって保存樹に指定されており、その地域の潜在植生を知ることができます。特に都市化の進んだ名古屋市では緑被率が少なく、緑地の確保が課題となりますが、こうした社寺林が貴重な存在となっています。その社寺林の代表選手が熱田神宮の森と言えます。

当日は、熱田神宮東門前に午前9時30分に集合しました。この日の参加者は一般9名(内、子供5名)、会員6名でした。熱田神宮や社寺林の観察などの簡単な説明の後、正参道に向けて出発しました。正参道の少し手前で左に折れ、清雪門の前を通り、南新宮社の周辺を散策しました。その後、正門横に出て、正参道を本宮に向かって北上しました。途中、くさなぎ広場に立ち寄り、南進池の周辺の樹木を観察しました。最後に大楠が立っている広場に行き、まとめの話の後解散しました。

今回の自然観察会では、カシやシイなどの常緑樹を中心に多くの樹木を観察することができました。多くの樹木の花期は終わっていましたが、サンゴジュの花だけが私たちの目を楽しませてくれました。名古屋支部がこれまで行ったあいちの自然観察会は、都市の自然の制約から、緑(樹木)に触れることをテーマとしています。樹木に触れ、その役割を知り、次世代に残していくことが目標となります。熱田神宮の社寺林の自然観察会は今回が初めてでしたが、交通の便も良く、機会があればまたチャレンジして、その自然の奥深さに触れてみたいと思いました。



観察会風景



神宮の大楠

あいちの自然観察会 ～面ノ木園地自然観察会～

東三河支部

2025年7月13日(土) 晴れ

当初は面ノ木園地の木地師の里近くにある、旧津具村の天然記念物に指定を受けている湿地をメインに観察会を行うつもりであった。過去にはこの湿地にノハナショウブ・ミズチドリ・サワギキョウなどが咲き誇り、周囲には多くのツチアケビが開花していた。そんな情景を頭に描いて下見を行って愕然。ニホンジカの食害によって、ノハナショウブもミズチドリも、サワギキョウまでも失われてしまっていた。湿地の周囲に多数あったツチアケビも1本も見当たらない。仕方なく、テーマをニホンジカの食害による自然環境の変化に変えて、観察会を実施した。

林道沿いには、ニホンジカが忌避するイワヒメワラビやコバノイシカグマなどが大きな群落を形成している。これらは暖地性のシダ植物であり、1000mを超えるこの場所には20年前には全く生育していなかった。地球温暖化の影響が、強く感じられる状況であった。

ニホンジカが食べ残したクモキリソウや、高い木に絡んでいて鹿が届かないイワガラミ、サンカクヅルなどの蔓植物を観察しながら木地師の里へと向かう。長く降っていなかった雨が上がった後ということで、キノコが多く、様々なキノコがフレッシュな子実体を立ち上げており、星野会長作画による美しいイラストを活用しての説明もあった。鹿が届く高さまでの葉を全て食べられてしまった植物が多くあり、ディアラインが良くわかる。一斉開花した後すでに何年もたっているのに、スズタケの群落は復活できていない。若い芽が出てくると鹿に食べられてしまうからである。そんな様子を説明しながら観察会を進めた。途中で旧津具村では初めての確認となるアスヒカズラを見つけることができたのは収穫であった。

駐車場にほど近い藪の外れにアキシバのかわいらしい花が咲いているのを見て、観察会を終えた。

昨年10月末 面の木峠



あいちの自然観察会 ～明德公園自然観察会～

尾張支部 2025年6月7日(土) 晴れ

暦：芒種 初候/蟪蛄生 芒のある穀物をまく頃。麦を刈り田植が行われる頃。かまきりが生まれる頃。



自然の不思議やたくさんの生き物と出会い、わあきゃあと言いながら森をみんなで歩き、楽しい観察会となりました。キツリフネの種を触るとピョ～ンとはじけ飛びびっくり。また、傘を逆さに持ちながら、枝葉にいる虫をキャッチ！虫かごに入れて、ヤブキリ幼虫とじっくりご対面。そしてスケッチタイムの発表では、それぞれの違った視点や表現にたくさん逢えました。桑の実やおやつもみんなで味わうとおいしさ倍増♪心残りは集合写真を忘れたこと。手作りお土産の提供や、運営サポート、また他支部からも含め当日参加してくれた指導員仲間の皆さん、心強く楽しい観察会でした。ありがとうございました。(辻)

ピースポートで見た「山火事と自然」 日本の山火事

中西 正

日本の自然に対して、火はどのように関与しているだろうか。その代表としては焼き畑が考えられる。以前は広く行われていたが、現在ではごく限られた地域だけになっている。火入れによる草地の維持も考えられる。阿蘇山、奈良の若草山、山口の秋吉台などがある。昨年行った秋田の寒風山も火入れによって草地が維持されていた。それによって得られた草地は放牧地になったり、景観として役だったり、生態系維持に役立ったりしている。これらはいずれも火をコントロールした好例だろう。

これに対してイレギュラーな火が山火事といえる。昔は頻繁に山火事報道があった。豊橋周辺のいくつかの山火事跡で植生調査したことがある。焼け跡に入ると焦げた木が立ち、炭の匂いと無生物的な静寂さがあった。焼けた場所は大きな森でなく、植林直後のような若い、幼い森が多かった。地面は石や岩が多く露出し、痩せた地味の感じがした。木は完全に燃えることなく、幹は黒く焦げた状態で残っていた。その状態からの自然回復を調べた。山火事が多発するのは冬から早春である。これは林床の草本の枯れ、蓄積した落ち葉が乾燥した時期である。山火事が多かった時代、それらの可燃物はまだ少なく、山火事の規模も小さかった。最近知る山火事は大規模で、長く続くものが多いが、これは林床に燃えるものが多く蓄積されているからではないと考えられる。

火は森の上部の木が燃えるよりも早く動き、林床を走る。このため山火事の消火時には危険が付きまとう。その火は地表にあるわけではなく、高い位置にある。アカマツ群落のフィールドではサルトリイバラが多く、その観察では地表から 30cm 当りが燃えきれていた。従って地表の温度は高くなっていなかったと考えられる。

時間が経つと緑が現れて来る。植生の回復で、地表では燃え残りの草から芽が出て来る。また、種子からの発芽もある。その発芽の場合、山火事による発芽促進の結果のものがある。草本ではススキ、メリケンカルガヤ、ベニバナボロギクが多く、木本ではアカメガシワやヤマハギ、ヌルデが多かった。このために、山火事跡にヤマハギの群落が成立することがある。焼け焦げて枯れたと思えるような木でも、時間が経つと芽を出すものがある。これにも強い弱いがあり、火が通ることによってマツは枯れてしまうが、高い確率で芽を出すのがネジキだった。山火事後は確実に緑が回復してきて、その後自然として回復してゆく。いわゆる二次遷移としての変化を示してくれる。考え方によってはかけがえのない実験場である。



豊橋国有林の山火事



山火事後の林床

春日井市 庄内川の植物 双子葉類の植物 2024年4月

内海勇夫（春日井自然友の会）

昨年度、春日井市と名古屋市の間に流れる庄内川の河原では、どんな草花が咲いているかを調べました。ここには、野球などを行うグラウンドになっています。河原には葎などが密集していますが、今回は高蔵寺運動場周り、川に近い河原を中心に調べました。調べる植物は、双子葉類の花のある植物を中心に行いました。

1 草本 双子葉類

トウカイタンポポ オオジシバリ オニタビラコ ハルジオン(帰) ニガナ ハルノゲシ
ムラサキケマン カキドオシ オオイヌノフグリ(帰) ムラサキサギゴケ
ムラサキカタバミ(帰) シロツメクサ(帰) ホトケノザ オッタチカタバミ(帰)
カラスノエンドウ(帰) スズメノエンドウ ナズナ オオマツバウンラン(帰)
ヒメオドリコソウ(帰) ヤエムグラ

2 写真

		
トウカイタンポポ	オオジシバリ	オニタビラコ
		
ハルジオン	ニガナ	ハルノゲシ

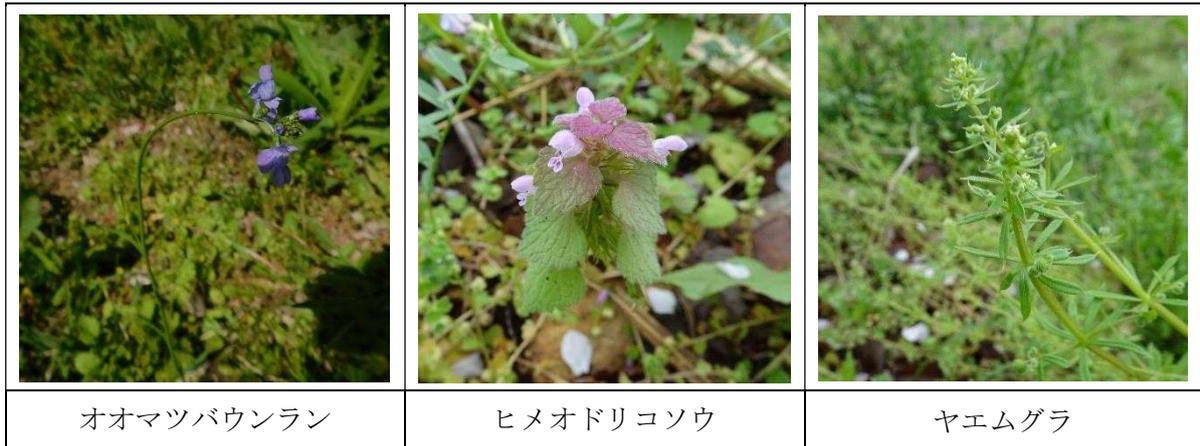
以下に続く

続く

		
ムラサキケマン	カキドオシ	オオイヌノフグリ
		
ケツネノボタン	ムラサキサギゴケ	ムラサキカタバミ
		
シロツメクサ	ホトケノザ	オッタチカタバミ
		
カラスノエンドウ	スズメノエンドウ	ナズナ

以下に続く

続く



3 おわりに

今回、高蔵寺運動広場は後に植えられた木々が大きく茂り、河原はブルドーザーによって掘りかえされ、人の手がかなり入っています。今回はグラウンド沿いと、川に近い河原を中心に観察しました。双子葉の植物は、外来種の割合が29%であることがわかりました。ただ、春4月の様子なので、パーセントの内容はまだこれから調べていくことが必要だと思われます。今後、春以降の資料をつけていきたいと思ひます。

昆虫も観察しました。

モンシロチョウ



コフキゾウムシ



<編集後記>

協議会ニュース 185 号は、今回から愛知県自然観察指導員連絡協議会の【会員専用】ニュースに掲載します。印刷・配送等の経費もなくなり、会費も少し安くなったようです。

協議会の内容は、各観察会の様子や各自の記録等を載せたいと思います。また協議会や各観察会以外の活動もあるかと思しますので、ぜひ投稿をお願いします。

編集委員 内海勇夫 馬場隆之

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会） 事務局 高松一史

メールアドレス： kazu_nol@hotmail.com

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）

機関紙「協議会ニュース」185号 2025年11月発行



昨年11月 春日井市廻間町 ビオトープにて